

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2016年産オランダ産/フランス産百合球根価格表（速報版）

コンディション/カテゴリについての説明

念の為冒頭お断り申し上げます。説明されているコンディション名/カテゴリの名称は、山喜農園が独自に作った物であり、関わる輸出業社とその中身を確認しながら作成しました。

逆に言うと当社からの説明を受けていて、その方法・意味を理解して、合意・実践してくれる会社からしか球根を導入していないと言う事です。

但し、同一輸出業社から供給提案があったケースでは他輸入業者が別の名称を使っている。又は説明されているケースがあるかとは存じます。ご理解頂きたいのは、使い方の説明が難しい。いつでも良くなる約束が出来ないから…。使い方そのものは、実はそんなに難しくはないはずなのです。

輸出業社側から提案されて作られた名称は一つもありません。（シベリア以外の JW セレクト・一部農家名販売球除く）

従って各々のコンディション/カテゴリの『商品説明』は本来であれば、当社及び当社輸入球根を取り扱って頂いている球根業社様からお買い上げ頂かないとわからない事が多いのかも知れません。
「ちゃんと説明できなければ誇大広告扱いされてしまいます。」

あくまでも生もの。年次変動・気象変動がつきもの。期待通りの結果が出ない事がある事もご承知おきください。（あくまでも長期プランで評価して頂きたい。そうやって違いを見極めてきました。）

技術は進歩していきます。新しい見方や見解・新しい使い方も生まれてくるはずです。より多くの方々と、情報共有出来ればと願っております。

当社の取っている手法が一つのたたき台になれば…よくたたかかれているなあ～！

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

5月9日発行の当社『球根情勢報告』において、16年産オランダ産/フランス産百合球根の動向について説明させていただきました。

よろしくご確認ください。

16年産から特定の品種について、コンディション/カテゴリ別に取扱い致します品種数が増加しております。

特殊コンディション化しても標準球と価格が殆どかわらないというケースが増えてきています。

それは、分ける目的・ビジョンが多様化してきているからかなと考えています。

価格の差はほとんどの場合、球根農家・輸出業社の製造原価の差なのです。（相場変動・営業リスクまで含めて）

正しくその価値・意味をご理解頂き、使って頂き、そのメリットを活かし収益向上に繋げて頂ければと願って

います。

その価値を正しく引きだして頂ければ、必ず切花生産の安定化に繋がるはずです。(数年間のプランでお考え下さい。)

価格表に示されているコンディション/カテゴリーについてご説明させていただきます。

*注意

- 1) 可能な限り球根出庫日ベースで作型を表現します。(難しいのです。全国それぞれですから…。)
- 2) 全国各地の気象条件・作型により、その「向き不向き」が変わってしまう場合がございます。くれぐれもご注意ください。
- 3) 球根品質維持・改善。切花品質向上・計画生産安定化の為の取組みとご理解ください。

フランス産： 2014年産から隔離免除

フランス産を重要視する1番の理由は切花作況の安定性確保、在来種を中心に春夏秋冬の切花供給が安定する事を願い、主に夏期定植用として球根生産が行われている、取り扱っています。

フランス産とオランダ産の差…丈が伸びやすい。高温期作型における花芽分化異常(奇形花発症率・アンテナ咲き etc)が、平均的にオランダ産に比べて少ない。

オランダとの球根生産環境比較で熱量・光量に差がある。暖かい。暑い。これがポイント!

昨年の「新潟レクシオンリブローズ」外隔離栽培試験で分かった事は、同一切花生産者が同一条件で切花生産を行えば、ほぼ確実に根張りが良くなり、花保ちも良くなる。その差は大きかったです。(38~39℃の外気温環境下において、フランス産からの切花は立毛の状態、脱水症状は起こさなかった。一方、オランダ産は立毛状態でも…。)
花じみ、花こげの発症率すらあきらかに減少する。(これは、高温という条件が悪い中で根バリの良さが、主要因だと思いますが…)

南半球産同様、フランス産は球根生産条件がきびしい。(だから球根が強くなる。)
南半球産同様に球根生産者数が少ない。
品種数が限定的。

TL (原則1年栽培)

0.H系では、4月1日以降の出庫日作型。(これより早く使うと低温積算が足りてない年産がある。低温積算不足の様々な悪い点が出てしまう。)

0.T系では、さらに遅く、4月20日以降。(これより早く植えすぎると輪が少なくなる。低温積算が足りていないから。)

L.A系でのフランス産使用は、初の試みとなりますが、3月以降の出庫が適正と考えていますし、願わくば4~9月末出庫作型で使用して頂きたい。

その作型でこそ真価を発揮するものと思われまます。

夏期定植作型用に特化した球根、その作型にて球根のポテンシャルを発揮してくれるのは、フランス産の方がオランダ産に比べて平均的に優秀だから。

到花日数の長さが違います!葉数数が違います!花持ちが良くなります!(オランダ産より到花日数が長くなる確率が高い。オランダ産より葉枚数が多くなる確率が高い。顕微鏡下で数えてみたのです。(最近目は悪くなって…。))

0.H/0.T系の最終出庫日は、8月末くらい。暖地でも9月10日くらいが限界と考えています。

フランス産の長期抑制作型は危険です。球根内の芽が大き過ぎて、芽内結氷型凍傷リスクがオランダ産に比べて高いからです。(この芽の大きさの違いは、暖かい・暑い気象条件で生産された球根の特徴、秋口でその差が大きく確認できます。)

品種によって最終出庫適正時期が異なりますので、お問い合わせ下さい。

2L

フランス産 2 年連続栽培球根。

使用法は、TL 球根に準じますが、花芽分化異常の出やすい品種については、やはり TL 球根よりは少し早めの作型で使ったほうが良い。

ハリア MAKTL/MAK2L 比較では、旧盆採花作型で、2L 球のほうが 5 日ほど早く咲いている。他品種も同様な傾向なので、その点は注意が必要。新潟県内の事例ではハリア MAK2L のケースで概ね 8 月お盆明けの週、出庫作型迄で、使用終了としている。他の品種はもっと早くに…。

2N 球 (オランダ産 2 年連続栽培、標準時期掘り取り球。) 同様 2L 球根は、

1L 球より丈伸びやすい

1L 球より輸付きが良くなりやすい。

1L 球より到花日数が短い。(オランダ産よりは長い。)

LMOV/LSV 罹病率が高くなる傾向。理解できていない球根農家/輸出業社がこの商品を取り扱おうと青かび・リンパ腐敗等のリスクもある。(まあ、誰が扱ってもやっぱり出る時は出ます。エマー 2N なんて…もう扱いたくない位。)

2N 球根同様、2L 球根の方が、花芽分化異常のリスクは同じフランス産 TL 球根との比較でやや高い。2N/2L 球根取扱いにあたっては、抑制作型で使う時、導入品種を間違っはいけない。

フランス産 2L 球根は、夏場のみ使用と考えられるので、奇形花になりにくい品種を選ばないと！

オランダ産の事例でもハリア・マロ・ハセブラ・ビビア (晩性ではないのに…) などで比較的良い結果が出ています。もしかしたら球根農家、輸出業社の失敗の経験が活かしているのかもしれませんが。概ね晩性系の品種は、うまくいく傾向が強く、早生系品種、球根農家・輸出業社の取扱い経験の浅い品種では、オランダ産 2N 抑制栽培は厳しいケースが多いように思います。

そこで、フランス産 2L 球根なのです。(少しでも作期拡大できる様に。)

2L は丈が伸びやすい。輸がつきやすい。これが最大の魅力の様です。

ハリア MAKTL・MAK2L を比較すると、輸付きで 1~1.5 輪以上の差。草丈で 12 cm 以上もの差がつく様です。施設内の遅い作型では、MAK2L は丈が伸び過ぎるとい指摘すらあります。

2L-KO

2 年連続栽培球根

16 年産シラから使用する「マク」です。従来シラの 2 年連続栽培はフランス産ですら、抑制作型時ブラックノズ等が多発しリスクが高い。

(TLS のイメージ)

『KO』とは、コイマン社の事 (球根農家名)。V.Z 社と連携協議して掘り取り期の調整を行い、ブラックノズ発症抑制を考えた。(特別なケを行う。マク社がやっていそう…。)

それでも球根出庫については、8 月上旬くらいまでが望まれる。

今までは、他の球根農家の生産もありましたが、16 年産は V.Z 社・コイマン社 (V.Z 扱い) のみとなります。コイマン社は、オランダ産でも優秀な若い球根農家の一人です。

カサブランカ TYS/TL

カサブランカにて使用。ホップマン社 (球根農家名) の球根。P.O 社しか扱わない。余れば他輸出業社へも…

カサブランカ TYS/2L

2 年連続栽培球根

カサブランカにて使用。ホップマン社 (球根農家名) の球根。P.O 社しか扱わない。余れば他輸出業社へも…

フランス産シペリアのコーナーです。

シペリアのコンディションについては後半の**フランス産シペリア**とあわせてお読みください。

シペリア MAKTL/2L : 325EURO・335EURO。(追加購入不可。作が良くなる事を願う。)

シペリア MAK フランス産においては、どちらかと言えば 2L の方で人気が高い。(夏向きがシペリア)。TL より丈が伸びやすいから。輸付きが良くなるから。

明らかに他のシペリアとは系統が違う様に見える。独自進化してきた系統の様に見えます。(プラス、MAK 社の生産管理技術！)

夏場でも涼しめの産地で、芽伸ばしの長さをさほど長くしなくても良い様だと、18/20・20/22 サイズは年によって輸付き過ぎの恐れも…。

夏場でも涼しめの産地は MAKTL18/20・20/22・16/18 サイズは、断然 MAK2L のほうが良いと思います。

奇形花発症率も、TL と比べて遜色ないとの事。(少ない！)

あくまでもシペリア MAK でのケースです。(掘り取りのタイミングやその後の管理が絶妙！年産にもよりますが…。)

いずれにしても、球根価格がシペリアの中で一番高価なので、各切花産地の最も酷暑期作型で使うべきではないでしょうか。

少しでも安全性の高い作型では、別コンディションをお勧めします。(無理して高価い球根だけに集中するのも…)

16 年産は、シペリア MAKTL/MAK2L 全球併せても、日本全体で約 1,700,000 球程度しか流通しない？

日本の消費球数(北半球産)の約 10% までではないのでは？ 大切に使っていきましょう！

コンディション別販売の象徴的球根品種ですが、どのように使われるべきなのか？ どんな作型で使われるべきなのか？ 取扱い球根業社と共に良く検討して頂けたら幸いです。

マク社は本当のところ、別の品種をフランスで作りたい。シペリアの 12 ヶ月切花供給の安定化を維持したいという依頼に対して、マク社自身の品種であるシペリアの市場価値を守る為に、生産継続に同意してくれている。輸出入業者は、2 年以上前倒しで、この計画に参加しているのです。

シペリア HLCTL/HLC2L : まだ仕入れが出来ていません。

この系統も他と比べて似ている木姿が少ない。独自進化した事が見えやすい。

MAK より、丈伸びない。普通のフランス産よりチャンスはある。HLC 2L は伸びた事も…上根のはらせ方がポイントの様です。MAK より葉が広い。蕾が太い。MAK よりウイルスリスクが高い年が過去にあった。

取扱いは減少する。生産も大きく減少している。

一部の切花農家には MAK 以上の評価を頂いたケースもある。

シペリア MAK 同様、TL/2L で奇形花発症率にさほど差が無い

主に MAKTL/2L 不足分を補てんするために使われるケースが多い。

夏作の奇形花発症率は、少なくともフランス産より少なくなるケースが多い。

シペリア TL : 270EURO。(初期仕入れ時価、在庫状況は不足感が出てきている様です。)

MAK より丈が伸びない。普通のフランス産よりチャンスはある。

当社のケースでは、P.O 社、V.Z 社、VDZ 社が取り扱う予定ですが、基本的にダウバート社(球根農家名)、一部パートナー社(球根農家名)の球根。

*フランスでシペリアを作っているオーナー農家は、把握している範囲で 5 軒。(MAK/V.Z 社を含む。)どれを買うかではなく、各々の切花産地がどの作型に使うかで、価値観に差が出てくる。

3 輸出業社共、パッキング技術は悪くない。(これは結構重要な要素だと思います！)

主に MAKTL/2L 不足分を補てんするために使われるケースが多い。

夏作の奇形花発症率は、少なくともフランス産より少なくなるケースが多い。

カサブランカ VOFTL ・ シベリア VOFTL : 270EURO。(初期仕入れ時価、追加購入出来ません。)

フランス産なので、夏場の奇形花発症率が少なくなるのは、品種問わずの傾向。これも独自系統進化した木姿が確認しやすい。

V. Z 社が選抜したオランダ産養成球を、自社農場から送っている。シベリア VOF は、本来夏向きではないが(丈が短い系統)、フランスの気象条件による生産である事と種球品質を信用してみた。

フランス産の中では4月の出庫作型、又はフランス産を使う一番遅い作型で…。採花時、加温する様な作型で…。

当社の場合、取り扱うフランス産球根については、ほぼ全量圃場確認を行っています。だから何?と思われるかもしれませんが、少しでも良い物を供給したいからです。輸出業社には無い視点で確認しているつもりです。

*農家名は全てオランダの球根農家、いわゆるオナー農家です。

取扱い球根・品種のオナー農家を把握しています。(そうでなければいきなり「フランスでエリート作って!」って頼めないでしょう…。二年前から頼んでいたのです。)

各々のオナー農家は、当社取扱い範囲では5軒のフランス産球根栽培農家にて委託生産を行っています。仕入予定の委託農家の農場を把握しています。

軒数が少なければ調べやすい。

ここまでがフランス産です。南半球産の『球根生産地別特性差』と同じように、球根が生産されている気象条件による違いを利用してそれぞれの特徴を使ってほしいのです。

*タキイ専門学校/研究所の職員(先生)は、『間違っても、「営業時」ウソは付くな』、『耐病性』と「強い」は違うのだという事を理解しろ』と教えました。

『自分にとって不都合でも、大切だと思えば、伝えなさい』と教えました。

30年前に自社のカタログ商品と他社商品との比較をしながら話してくれたことです。

これは肝に銘じなければと思った事でした。

オランダ産 : 基本的に冷涼な気象条件で球根が栽培されている。涼しい時期、寒い時期の切花作型に向いている。従ってオランダ産で夏作を実行する場合、その『品種選択の重要性』は極めて高い。高温耐性・草丈・花じみ etc…。

最近、南半球産やフランス産に注目が集まりがちですが、日本・世界が消費している球根は、断トツにオランダ産です。品種が最も多様化するのも当然オランダ産から…。

日本産の百合球根の大半も、オランダ産養成球から生産されています。(日之本・鉄砲百合は除きます。)

南部・東部・北部と生産地が分かれています。

南部

O. H/O. T 系開花球生産が多い。オランダの球根生産地の中では当然一番暖かい。やや天候の振れ幅が大きいがここ数年は安定している。

一部の球根農家・育種会社が原母球をこの南部で作っている。これは正解だと思います。

東部

L. A, O. H/O. T 開花球生産が多い。内陸の為比較的暖かく、天候が安定している地域と言われている。近年では天候に恵まれていない。

複数の育種会社が原母球をこの東部で作っている。(MAK 社、D. J 社過去には vletter 社 etc.) これは正解だと思います。

北部

どちらかと言えば開花球生産面積は多くない。多くの球根農家（オナー農家）が農場を構えている関係で、この地において自作で原母球生産を行うケースが増えてきた。（回帰してきた。これは良い事と思います。）

チュリップ・その他の球根生産が圧倒的に多いのです。ウイルス管理等、気を付けてほしい事が…

北部は、冷涼な気候で、チュリップ球根栽培には適していますが、百合球根開花球生産は…。

N.Zインガカギル地区の様なモノ…。

そんな中で、さすがワルトフラワー社（育種会社。当社WFコード扱い分）は、安定して高品質球根生産を行っている。（従って、北部でも優秀な球根は出来るのでしょうか。）

私にとっては、過去14年間、オランダ産百合球根の作況を占ううえでいつも基準にしてきたのがこの会社。当社課長が、球根生産を1年半に渡り学んだのがこの会社です。

オランダ全域とも、N.Z/ネピア、C.H/ロアンゾエリス・バルティビアと比較できる生産地域はありません。（南半球のこれらの産地は、フランス産と比較するべき！）

オランダの気象条件は、どちらかと言えば、N.Z/インガカギル、ラカヤ・C.H/カウリ・ピュエエの様な気象条件に近い様に思います。

※少なくとも秋口の芽形成調査では、各、南・東・北生産地域での芽の大きさは、南半球生産地域間の様な差はありません。オランダ産として比較される対象は、フランス産となります。

EVR98年産から使用。最初のコンディションです。その当時は無我夢中でした。どうしたら良くなるのだろうか…。

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

あくまでも養成球又は原母球の、EまたはEEウイルス濃度証明書付き球根。今でもこの意味は、ことウイルス濃度に関しては、重要。**そして、精神的にも…。**

P.O社があえてグアシアやゲジュサ・フェス・パタゴニア、VZ社もアケバ・マルボロなどに対して、16年産取引開始時、「もう一度このロゴで品質規格表記をしてくれ」と、念を押されました。長い間、この規格の為に骨を折ってくれていた2社は今でもこの「マーク」の意味を大切にしてくれています。

Plamvとの戦いを表現する方法はないのか？振り返って、模索しているのです。

現在のオランダ産ウイルス濃度基準では、切花用流通球根のPlamvの発症率との関連が完全に取れているわけではありません。（輸出業社が必ず輸出洗浄するから…などなど対策がとりきれていない…）

Plamv完全フリーをうたう事は難しい。

当社においては、オランダ球根業界において、『Yamaki Noen』という名前を覚えてもらったきっかけにもなっているのが「EVR」という「マーク」です。**だって、球根農家に対して、「どこの国よりも品質にお金を払います」って言ったのと同じ意味でしょう！**「それが日本市場のイメージを作ったんだよ」と、昔言われた事を思い出しました。

軽んじて他社が使っているのであれば、それは…。ちょっと…待ってよ…。というお話です。

輸出入業社…昔々、よくコンディションの意味を理解していない輸出業社が、『EVR』だと言って営業していましたっけ…。

そこら辺から話がおかしくなっちゃったんですね…。

EVRは、古くなってきた品種、ロット間品質格差が出てきた時に使うべき「マーク」なんですよ…。

あくまでもウイルス濃度について！

青ガビが生えないとか、球根が腐らないとか、ブラックノズが出ないとか、奇形花が出にくいとか…。球根の総合品質の話や、気象変動耐性の話とは関係ないのです。

それは全てのがコリー/コンディションで言えることなのですが、それぞれ目的・意味が違います。あくまでも商品説明をしやすくする為、球根を正しい作型に使ってもらいやすくする為に、「マーク」をつけているのです。

※育種会社が時々ウイルス汚染の差別化をはかる為、私自身も新しい品種ですら差別化をはかるために使うケースが出てきました。

なぜでしょう？

この「コンディション・カテゴリ説明」の中で、様々な「マーク」によって区分されている球根は原則、「EVR」「SES」「NES」の条件を満たしています。(標準球ですら、その条件をクリアしている物があると考えてよいのです。)

但し…。

98年以降、オランダの球根生産産業も随分変わってきています。球根農家数は減少し、規模が拡大してきています。百合球根は、出荷当年に病気・ウイルス等に罹病してしまうケース等があり、しっかりした原母球・種球管理が行われていても事故が起こるケースがあります。

どんなに分けても分けきれないのが当年感染、しかも農家レベルだけでなく輸出業者レベルさえ、感染原因を作ってしまう。

母球ではなく、切花用球根、輸出用養成球などの販売球に対して、「全ての作業行程」を「出荷前の荷姿」まで作業終了させてから、従来行っていなかったウイルスチェックを始めた球根農家・輸出業者が出始めているのです。それらの努力を「表現するマーク」や「仕組み」は、まだありません。

彼らの努力を表現する方法は…？切花農家に、説明できる方法は？

結果しかないですけどね…。

「生産地表記」・「球根生産方法表記」以外の「品質や特性を示す表記」に対しての「輸出業者側の覚悟」、「それに対しての緊張感」は通常取引以上のものなのです。まして、輸出業者名が「マーク」に含まれているとなると…。もう一度「EVR を」と考えてくれた会社。「マーク」を表記するのに、オランダを含める事を悩んだ会社、「コンディション・カテゴリ」に関わっている会社＝自分はチームだと考えています。一緒に考えていく事が重要だと思っています。「一つ一つの球根が生産流通するプロセスを見続けていきたいのです。」

各輸出業者が、他の輸出業者を馬鹿にしたり、皮肉った時、「俺の選んだ供給業者を馬鹿にするな！！」と怒ります。

当社が取引している8輸出業者、全てに対してです。良い所も悪い所もあるのです。

標準球

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。
ところで…

そういうわけですから…

何の標記もない球根にも2種類の意味があります。

- 1) まだ品種が新しくてコンディション/カテゴリ別を設定する必要の無い品種、逆に言えばカテゴリ/コンディションが設定できないとも言えます。(ほとんどのケースで、EVR・SES・NESの条件をクリアしています。新しい品種でウイルスに弱い品種には、時々「マーク」を表記し始めました。例えばグレイア。)
- 2) 古い品種でコンディション/カテゴリが設定されていない品種は…良いロットが無くなってきている。一番困っているのは、昔は「新しい品種は綺麗です。」と言えたのに、最近「新しい品種」だからといって、綺麗とは言えない品種が出てきています。だからもう一度、EVRなのかもしれません。

中には差別化する必要が無いくらいきれいなままのものもあるのでね。(例えばロンバルディ)

強いて言うなら…もう一つ…。

まだ育種会社レベルで生産されている品種でリクオンからダルクトに球根生産された球根は、通称「P-1」・「P-2」と呼ばれています。

これは「山喜農園」が作った名称ではありません。(ランダで普通に使われている)

『P-1』『P-2』の球根はウイルス濃度的にはきれいなのですが、ホルモバランスの異常から様々な問題を引き起こします。

輪付きも悪く、葉焼け、奇形花など、様々な問題を引き起こしやすい球根です。(球根が弱いといえるかも…)

多くの「新品種」・「新発売」と言われている品種はこの問題を抱えているケースが多くなっています。(特にO.T系。リクオンダルクト球から鱗片増殖しても、まだその影響が残る場合もあります。(テーブルダグ・etc.)

「新品種」というより「実験段階品種」「試験栽培段階品種」と表現した方が良いのかもしれませんが。

「P-1」「P-2」をカテゴリ/コンディション表記出来ないのは、近い将来「標準球」になってしまうからです。

S-ES

普通のランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

リボン養成球及びリボン養成球生産時木子球のみを養成球とした切花サイズ球根。

開花球生産時に出来る木子球は絶対まぜさせない。

主に「セラダ」「インディアンダイヤモンド」「カプレット」で使用。

母球更新を怠れば、意味がない。

O.H・O.T系は原則、木子球からの生産は無い。(昔は時々あった。)従って、SES表記される必要がない。

N-ES

普通のランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

主にリボン、イローウィンにて使用。

数年前にリーフネトダが多発した年があった。

これは養成球の温とう消毒をしっかりと実行していなかった事が原因。

必ず温とう消毒を実行してあるロットについて使用した。

ネトダが発症していない品種にこの「マーク」を使う必要は無い。

最近ではまた温とう消毒を減らしてきていたケースがあったそうです。これは「Plamv問題」との関連。

ネトダ対策の為の農薬規制が強まって、ネトダ土壌対策がどんどん出来にくくなってきている。

再びこの「マーク」の重要性が復活してくるかもしれない。だから使い続けます。

しかもリボン・イローウィン以外の品種でも！

MAK・WF

普通のランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

育種会社が原母球・養成球を自社で生産し、開花球も自社産の球根。(委託生産含む)

やはり平均的に品質は良い。

普通のランダの気象条件下で、育種会社が行う業務レベルの作業水準で作られた球根。

新しい品種ではP-1、P-2の確率が高いが、この2件は比較的それをまぜない所を気に入っています。

球根農家にライセンスを販売する時、原母球供給の考え方が他育種会社の考え方と違うのでそうなったのだと思います。

CT・VZ セレクト・VISS・HLC シベリア以外の JW セレクト

普通のランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

各輸出業社が特に自信のある「ロット」を差別化して販売している。

彼らも標準球より高価めの仕入を行っているケースが多い。

CT は DJ 社がキャピタン社産（球根農家名）のマルロで使っている。

VISS は PO 社がヴァイサー社産（球根農家名）のレイキヤーで使っている。レイキヤーは、悪い物が多かったから…。

VZ セレクト は VZ 社がホップマン社（球根農家名 TYS と同じ農家）マルポロに使っている。

PO 社の EVR 球もホップマン社産。P.O 社は EVR で表現。プライトの高さを感じます。一貫性があると感じます。栽培面積が減少しているマルポロの中では、この農家の球根が 1 番品質が良いと私も感じています。

シベリア以外の JW セレクト

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

実はこの JW セレクト、扱いはまだ少ないですが、ちょっと注目してほしいコンディションです。

付き合いが長いので敢えてはっきり言いますが、この会社は新品種、希少品種は得意ではありません。なのに中国・メキシコでは高い評価を受けています。輸出用パッケージ技術も TOP クラスの品質安定感です。

営業ベタで対日シェアをやや落とし気味でした。

使ってみる価値はある様です。本来オランダ産の球根を使うべき作型で…。JW 社という会社の球根を見直してほしくて、本人からの依頼があって出来た「マーク」です。球根生産者・産地・その他の背景は 100% JW 社に委ねています。そういう訳で本気度が違うように見えます。こういうのを「セレクト」というのでしょうか？生産履歴や背景は敢えて聞いていません。彼らの責任が増すからです。

O.T/O.H 系だけでなく、L.A でもまずまず評判が良いですよ！

経営者が石頭なのです。でも案外いい奴なのです。（これは褒め言葉）

一般品種化した時の彼らの球根の品質の安定感は、JW 社・PO 社が最近ではちょっと抜けてきている様に感じます。（彼ら 2 件だけでなく各社、得意・不得意品種・分野があります。）

彼らの日本市場に対しての思い、球根業者として生き残ってきた思いなのかなあとと思います。

シベリア以外の VOF/VOF・TYS

シーラ、ビビアナ、シグナム、カブラナカ etc で使用。

V.Z 社以外の球根農家が、栽培・販売ライセンスを取得して、一定の時間の経過と共に、ロット間品質格差が生まれてきてから、このマークを使い始めます。

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

基本的には JW セレクトと似ています。特定の生産農家の球根。

但し、わざわざ分けた理由が原母球/養成球が育種会社でもある VZ 社自社農場（育種会社レベルの品質）で母球が管理されている所、又は自社農場産の球根だからです。

VZ 社自社農場産しかない品種ではこの「マーク」は敢えて使いません。

そういう意味では、JW セレクトと MAK・WF の両方の意味合いを兼ねています。

FESS

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

15 年産より試験開始。

インディアンダヤメントについてのみ使用。

DJ 社（インディアンダヤメントの育種をした会社）が 1 番最近に刈刈をかけたロットを、「SES」からさらに選抜。

P-1、P-2 では無い。

新しい球根だとどのように違ってくるのかを調査したくて、インディアンダヤメント購入切花農家に試して頂いている。

普通のインディアンダヤメントを生産している農家を作っています。

「FESS」の「F」は、フリーストという地名の様です。

POP・PVP

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

新しいステップです。輸出業社を刺激したい。各輸出業者の Packaging 差を表現したい！

『POP』は PO 社 Packaging。

『PVP』は PO 社・VZ 社 Packaging。

この2社を選んだのはまずまずの Packaging 技術レベルで、当社取扱い数が一番多いから。彼らを基準にしたい。へんてこりんなロットを入れてくる事もなさそうですね…。時々ありますが…。信用しているのです。長いパツで！

当社の場合「オランダ産・フランス産」の取扱総球数の内、この2件のシェアが7割を超えています。

過去数年間の事例で同一品種、同一ロット、同一切花産地、同一切花作型において、複数の切花産地で各輸出業社ごとで切花品質に少なくない差が出てきた事を確認し始めています。(千葉・高知・埼玉・新潟・山形 etc. 複数品種で、事例確認された。)

2社に確認した所、『VZ社から買えば全てVZ社 Packaging』、『PO社から買えばPO社 Packaging なのにおかしくないか?』、との指摘を受けました。

アステリアン・P ブロント (特にこの品種! 2 球根農家の同一ロットなのに、輸出業社間の差が大きくて…)・ハトパークで際立った差が確認されていたので、16年産で試験する事にしました。本当はインディアンダ イメントも…。当社インディアンダ イメントは、P.O社・D.J社 (インディアンダ イメント 育種会社でもある。)・J.W社・V.Z社となっております。

当社が Packaging について評価している輸出会社。

Bランクを付けている ?社

Cランクを付けている ?社

Dランクを付けている ?社

全ての会社がAランク又はB+αぐらいになってもらいたいという願いを込めています。(Aは難しいですね!)
どこも一長一短がある。

オランダ産につきましては、ここまでのコンディション分け/加コリ分けが球根の品質に関わる分類となります。

TURBO・2N

2年連続栽培、早掘り球根 (TURBO)。最近取扱いが減少してきています。2Nが変わって代用されてきています。

(安全性がTURBO球より高く、球根入荷期の関係、南半球産増加の影響により)

2年連続栽培、標準掘り取り期に収穫された球根 (2N) です。

TURBO球を抑制作型に使うことはおすすめ出来ません。

あくまでも品種を選んで、2N球での抑制作型は可能です。(制限されます。)

品種やその年の気象推移によっては、長期抑制作型でも「2N球」の方がむしろ「1N球」より良い結果が出る事があります。(そういう結果は、論理的ではないのです。それが生もの! 年次気象条件変動によるところの典型的事例!)

2N球は、フランス産2L球同様、早目の作型で使用してください。(同一品種を複数回栽培されるなら、相対的に早めの作型で、という意味。)

輸付きが良くなる。(ワラック下のサイズが、使える場合すらある。)

草丈が伸びやすくなる。

生育速度がはやくなる。

ウイルス発症率はやや高い。

抑制作型・冷凍期間中の球根エネルギー消費が 1N と比べて早い。(特に品種を間違えると…球根農家が 2N 取扱いの
ノウハウが無いと…)

酷暑期に使用したい品種はフランス産 2L 球に選択した方が良いと思います。原則 8 月以降の出庫作型は、行うべ
きでは無いのでは…？
それができる品種は相当制限されます。

標準球、又は品種名のみでご注文頂いた時、球根出庫時期に合わせて、こちらから「それなら 2N で…」と
お進めするケースが主な取引方法になっています。付きましたは、ご注文の際には「納期」を入れて頂くと助かり
ます。もちろんご自身で選んで頂いて結構です。

※フランス産の場合、球根生産方法によりコンディション/カテゴリを分けたのはこの 2 つだけです。

最後にハベリアです

**フランス産ハベリアも含めてそれぞれの「マーク」を「別品種」として見て頂ければ良いのでは？そこが味
の様な気がします。系統選抜しているのです。これは実際に切花農家と一緒に時間をかけてやらない
と出来ない。**

私が思うには、日本市場において全国の百合切花農家が結果的に力を合わせて、12 か月間の切花流通が最も
安定的に行われている品種がハベリアだと思えます。もうこの品種位しか残っていない？

MAK : 310EURO。(追加購入不可。)

普通のフランス産球根です。通常通りお使い下さい。

もう説明する必要はないでしょう。MAK 社のフランス産球根は、球根栽培農家の母球となるケースが増えた為 (Plamv
の影響)、日本には殆ど入荷しません。

「営利切花栽培用球根販売価格」と「原母球販売価格」との差は、なんと 180EURO 以上違います。(ケースバ
イスですが。)

一般的なハベリアと系統が違うように見えます。(独自系統進化+球根生産方法)

普通の球根農家がこの原母球を使っても…良くはなりますが…MAK と同じくはならないですね…。何回か試
したのですけど…。

JW セレクト改め JW アーリー : 210EURO。16/18 価格です。18/20 は仕入れていない。(初期仕入れ時価、追加購
入不可。)

普通のフランス産球根です。通常通りお使い下さい。

「JW セレクト」とは違う系統の様に感じていますが…不明です。

促成作型ハベリア、3 月いっぱいの出庫期作型までがおすすです。どうやら系統的に他のコンディションよりスピード
がある様です。

「2N 球では無い」という説明です。

促成用としてはこのコンディションの扱いが 1 番多いです。一般的なハベリアと系統が違うように見えます。

選抜の責任は JW 社が負っています。生産者等、背景は敢えて聞かない。明らかに彼らの責任が増したから！

独自系統進化しているのでしょうか？

VOF : 250EURO。(初期仕入れ時価、在庫状況未調査。)

普通のフランス産球根です。通常通りお使い下さい。

VZ 社より提案。

この「マーク」で分類された『VZ 社のハベリア』は NZ 産ハベリアの原母球となります。従って品質は安定しています。

やや丈が伸びづらい系統の様なので促成が8月25日以降さらに遅い出庫作型が向いているのではないでしょう
うか！夏場の産地が使う「コンディション」では無い様に思いますが…。

ほら！涼しい時期用の品種と捉えたらどうでしょう！

ハリアの丈が伸びすぎになる作型用と位置づけています。独自進化がわかりやすい！

VZH : 250EURO。(初期仕入れ時価、在庫状況未調査。)

普通のワタ産球根です。通常通りお使い下さい。

VZ社より提案。

15年産から試験開始。

VZ社取扱いロットの中からVZ社自らが丈の伸びやすいロットを選抜してくれた。

VZHの「H」は「High」の意味です。「L」・「Long」は使えなかった…。

本年作が初試験となります。比較的丈が伸びにくい作型で使ってみてほしい。

早く、癖をつかみたい。

選抜の責任はVZ社が負っています。生産者等、背景は敢えて聞かない。彼らの責任が増すから！

DJF : 250EURO。(初期仕入れ時価、在庫状況未調査。)

普通のワタ産球根です。通常通りお使い下さい。

16年産から試験導入。DJ社からの提案。

すでに他の輸入業者様が販売しているロット。良いなあと思ったポイントは『茎の太さ』の揃いがとても良い。

JWアーリーやPOF-Kに匹敵するくらい。これは試験する価値があると考え、導入を決めました！

まずは安全な作型で使ってみてください。どの作型が向くのか？促成ではすでに良いように見えます。

早くくせをつかみたい。

DJFのFは『フリースタッド』の地名から取りました。

選抜の責任はDJ社が負っています。生産者等、背景は敢えて聞かない。彼らの責任が増すから！

JWレート : 265EURO。(初期仕入れ時価、追加購入不可。)

普通のワタ産球根です。通常通りお使い下さい。

「JWレート」とは別系統の様に感じていますが…どうでしょうか？(新潟県・山形県夏作における他輸入業社様が供給された球根との比較では、かなり違った。)茎が伸びやすい。輪が少なめで、付き過ぎにならない。18/20で4輪が出る事もある。

ワタ産の中ではPOF-K並みかそれ以上に丈が伸びやすい。芽の動きが比較的遅いので、ここまでの所では球根事故が少ない。(奇形花も少ない…あくまでもワタ産にしては…)

球根パッキング技術まで含めて良い球根だと思う。

JWアーリー同様、JWレートは実績が積み重ねてきた球根です。

これも系統独自進化に見えます。

選抜の責任はJW社が負っています。生産者等、背景は敢えて聞かない。

POF-K 2N : 270EURO。(初期仕入れ時価、追加購入不可。)

普通のワタ産球根ですが、2N栽培です。通常通りお使い下さい。

すでに実績のある球根です。(1Nでの実績、2Nの特性は意識しないと…。ハリアだから大丈夫か?)

16年産が最後となりますが、最後に良い仕事をしてくれると願っています。

JWレート並みかそれ以上という位置づけです。

丈が伸びます。輪付きはJWレートより良くなります。(奇形花発症リスクは普通のワタ産と変わらない)

これも系統独自進化に見えます。この農家の球根栽培技術も平均以上です。

時々…良い球根農家で作った球根は「良い品種」を超えていると思っています。それを見出すことは凄くやりがいがあります。

POF-EFP : 265EURO。(初期仕入れ時価、追加購入不可。)

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

16年産から取扱い開始という少し語弊があります。後程説明させて頂く「POF」からの選抜です。

POF-Kの跡継ぎを作らないと！（これが16年産以降の重要なポイント）

丈が伸びやすいロットの選抜を強化しました。JWレート同様の使い方をお願い致します。

早くくせをつかみたい。どの作型が向くのか？この輸出会社のコントロール力を最大限評価したい。まずは丈が伸びてほしい作型で試験してほしい。

EFPとは…

『エバート/フランス・プライト』オランダ社の経営陣の意地が詰まっている様です。（私が名前を決めました。Dai語みたいと言われた…。）

この会社は品質についての意地・プライトは高い。あまり顔には出しませんが…。

選抜の責任はPO社が負っています。生産者等、背景は敢えて聞かない。（若干聞いていますけど…。）彼らの責任が増すから！

POF : 255EURO。（初期仕入れ時価、追加購入可能だが、少なくなってきた。価格上昇。）

普通のオランダ産球根です。通常通りお使い下さい。

くせをつかみきれていない。まだ2年目なので…。日本の輸入業者からの指摘を受けて（相当悔しかったみたい）

茎の太さと草丈、特に茎の太さの揃いを良くしようと思えば、養成球サイズの揃いまで「畑」から調査していかなければいけない。温室の中の試験栽培の結果だけでは見出せません。

POFやEVRはオランダ社にとって、最も意地の見せ所なのかも知れません。（EVRを一番、最初に作ってくれた会社です。）

どの作型が向くのか？この輸出会社のコントロール力を最大限評価したい。

選抜の責任はPO社が負っています。生産者等、背景は敢えて聞かない。（若干聞いていますけど…。）彼らの責任が増すから！

EFP同様、将来のハリア球根生産状況、中国市場動向考えた時、今の『オランダ渡し価格』=『FOB価格』240～250EURO 18/20サイズが、仮に270～280EUROに上がったとしても（330EUROはさすがにいくら中国でも…）切花農家に大きな負担をさせない、安定的な品質、価格に見合った球根供給を維持していく為に、球根を作り続けてくれる優良ロット・農家を守っていききたい。

各切花産地に適した「系統」を作りたい！（ほら、品種みたいでしょう！）

（これに近い方法で、「カブラカ TYS」は成長してきたのです。ハリアでも同じ事が出来ると思います。有望品種を作るのと一緒にしよう！）

※ハリアについてはコンディション/カテゴリ、「マーク」毎の価格差が多い様に感じられるかも知れませんが、MAKTL/2Lは別格。

その他の「マーク」では価格差が大きいとはいえないのではないのでしょうか？その年産内の球根市場相場で、変動する価格範囲より少ないです。例えば今日現在、オランダ社から16年産「POF」コンディションを追加購入すれば255EUROが、すでに当社に対しては265～270EUROまで値上がりしています。（優良ロットのハリアは多くない。）夏場の草丈5cm～10cmの差。茎の太さの均一性と固さ。奇形花発症率抑制効果可能性等あげていければ、16/18サイズベースで最大2.3円。

18/20サイズで最大4.6円。（5月12日現在概算価格差…。）出来上がる切花品質と市場安定供給実現で、仕入コスト差を解消して頂きたい。

※球根は「原材料」であって「農産物」ですよ！「農産物」の「品質による価格差」ってどのくらいであるべきでしょう？

「マーク」ごとの価格差は16年産の円高基調の価格形成環境のおかげでそれぞれのコンディションを使い分ける経験を積んで頂く追い風となっていると思います。

宜しく御検討ください。

「お前の為に作った商品規格・お前の為の情報だぞ！」とされています。…が。「日本市場の武器は透明性」だとも言われています。

P.S

5月第一週より、オランダは26～27°C位まで気温が上昇したそうです。(約一週間。)

週末はまた気温が下がるみたい。

今の時期の天候は、冬場の掘り取り時期以上に、気になります。(やきもきします。)

この次の情勢報告は、品種（新品種だけではなくて）解説になろうかと思えます。宜しくお付き合い下さい。



<http://www.lily-promotion.jp/>
私共はLPJの趣旨に賛同し
協力・応援しています

以上
森山 隆